

平成20年度

新潟駅・駅前広場の活用を考える「市民組織設立準備会」勉強会

新潟駅・駅前広場の活用を考える「市民組織設立準備会」とは、平成19年度に開催した「市民による新潟駅南口広場活用計画づくりワークショップ」の結果を受け、「平成21年秋には完成する新・南口広場において、市民による広場活用のための『コーディネート組織立ち上げに向けた検討』を行う」ことを目的に市民有志で立ち上げた会です。

平成20年度は、全国各地の類似・参考事例の担当者・実践者等をゲストに招き、現状や実際の流れ等を伺いながら、新潟における市民組織のあり方を考える勉強会を7回開始しました。

第1回勉強会 (H20.7.25)

テーマ：駅前広場の規制・条例の仕組みについて
 ゲスト：新潟駅周辺整備事務所 小林正人氏

【内容】

現状における新潟駅駅前広場の規制の内容を知り、今後の駅前広場活用に向けて必要な制度変更等について考える。

【要点】

- 市民が活用できるスペースは、広場扱いで条例化する予定。
 →道路扱いとはならないため、警察協議が必要となる。
- ただし、歩道部分は道路扱いなので、警察協議が必要となる。



- 駅前広場は、市屋外広告物条例の禁止区域であるため、常設看板は相当制限される。
 →企業の広告物を掲載して収入を得るといったビジネスモデルは、現状では不可。



【要点】

- 民間が「営利目的のための公共空間を活用する」というのは、なかなか難しい。公共性と出店者の事業性のさじ加減が特に！
- 飲食店が出店する場合、地先利用型ならばよいが、独立店舗型はリスクが高いため民間事業者は乗りづらい。
- 道路使用について、警察許可はなかなか下りにくい。

第2回勉強会 (H20.9.9)

テーマ：公共空間を利用する際の留意点は？
 ゲスト：広島市都市活性化局観光交流部交流課 繁氏

【内容】

水辺のオープンカフェ等を先進的に展開している広島市。そこで、広島市の担当者をゲストに招き、水辺のオープンカフェの仕組みや現状等を伺いながら、新潟での方向性を考える。



第3回勉強会 (H20.11.19)

テーマ：公共空間活用の仲間づくり・協力者集めの方法について
 ゲスト：横浜・鶴見西口オープンカフェ協議会 佐藤正士氏

【内容】

広場活用における仲間（催しを主催する組織・団体）や協力者集めの方法について、横浜・鶴見西口の担当者をゲストに招き、具体的な仕組みや現在の状況を伺いながら、新潟での方向性を考える。



【要点】

- 毎週末に開催するイベントは、毎年2月ぐらいに年間スケジュールを協議会事務局が作成する。
- 協議会が出演者を探し、依頼する（交通費 + αの実費を支払う）
- 会場設営等は、協議会メンバーを含めた地元の方々が行っている。
- 機材・備品は自前で所有している（毎回リースではお金がかかりすぎる）。また保管場所も近接した場所にある（周辺建物の倉庫を無償で借りている）。
- 電気水道は、近接するビルから無償で提供してもらっている。また移動販売などの飲食店が出店しても、マージンは取っていない。
- あくまでも交流・賑わい創出が目的。（イベント開催に年間500万円の費用がかかっている）

第4回勉強会 (H21.2.5)

テーマ：官民協働による広場の管理方法を考える
 ゲスト：NPO 法人 KAO の会 下田裕裕氏

【内容】

市民主体による駅前広場の維持管理に関して、千葉県鎌ヶ谷東口駅前地区での具体的な仕組みや現状をお話ししてもらって、新潟での方向性を考える。

【要点】

- 組織維持のための収入源確保が、最大のポイント。広場の管理委託は、維持管理にかかる人件費のみで消えてしまい、組織運営費まで賄えない。
- 共同ビルの管理委託をNPOで受託し、それで運営費を捻出している。また、近隣の地主の協力を得て、コインパーキング事業も行うなどしている。
- イベントは定期的に行っている訳ではない（年4回程度）。それでも、機材のストックヤードは重要。
- 駅前広場に面した建物の一室を無償で借りて事務局を置いている。そこが地域のサロンとなっている。



第5回勉強会 (H21.2.19)

テーマ：新・南口広場の利活用の仕組みを考えよう（その1）

【内容】

広島・横浜・鎌ヶ谷という3つの先進事例から見てきたことを振り返り、新潟駅南口広場の具体的な方法を考える。

【要点】

- 市民側の機運を盛り上げていくために、現地見学会を行いながら色々な団体・組織を巻き込んでいくことが必要。
- 勉強会で学んだ事例は、確かに参考になったが、新潟でそのまま適用できるものではない（駅の性格・周辺環境の違いから）。
- まずは、既存のイベント誘致する方向で、広場利用を検討してはどうか？

第6回勉強会 (H21.3.5)

テーマ：新・南口広場の利活用の仕組みを考えよう（その2）

【内容】

新・南口広場活用の利活用を進めるための具体的な方法について、意見交換を更に深めていく。

【要点】

- 行政側としては、新南口広場をどんどん活用してもらいたいと考えており、出来る限り柔軟な対応はしていきたい。
- 他市で参考になる事例が少ないため、新潟独自の方法を模索していかなくてはならない。そのためには、まずは実際に運用しながら、具体的な仕組み・体制等を考えていくしかない。
- 市民組織の立ち上げ・運用管理の具体的な方法については、色々と実験を繰り返しながら考えていくこととする。



第7回勉強会 (H21.3.12)

テーマ：新・南口広場の利活用の仕組みを考えよう（その3）
 ゲスト：中野恒明氏（株）アプル総合計画事務所

【内容】

新潟駅・南口広場の利活用の具体的な進め方について、過去6回の勉強会の内容や中野氏からの助言を踏まえ、次年度からの具体的な方向性を考える。

【要点】

- 広場が利用されるほど、実は修繕費等の経費が膨らんでいく。そのため、広場利用によって収益を上げ、維持管理費を「稼ぎ出す」という仕組みが必要。全国でもこうした事例は皆無であるため、

新潟がモデルとなって仕組みを作り出していくしかない。

- 収益をあげるイベントを主催し、利益を運営費・維持費に回す仕組みを、実験を重ねながら検討していくこととする。